

Management Club Report

Jan.2007/Vol.49

Monthly Opinion 《高潔・プライド・謙虚》

年頭に当り「高貴」を目指す

やや時期遅れですが1月のレポートですので、新年明けましておめでとうございます。の挨拶で始めたいと思います。本年もよろしく願いいたします。

新年早々多くの会員の方から賀状を頂きましたが、その中で、初期の頃からの会員の方から「時に高貴な志を感じる経営指針に地味乍らも学ばせていただいております云々」という言葉が書き添えられている賀状を頂きました。短い言葉ですが、「目指していることを受け入れてもらっている」ことを改めて実感することができ大変幸せに感じました。

日々、とても「高貴」などとは言えない生活を送っている身としては赤面の至りですが、「このように思ってくれる方がいるのだ。口先だけにならないようにしなければ」と改めて気持ちを引き締めることができました。千葉の U 先生、これからもよろしく願いいたします。

今年のテーマは「高潔・プライド・謙虚」

このような励ましを受けたから、という訳ではありませんが、今年第1号のテーマは「高潔・プライド・謙虚」にしました。と言うのも、現代の日本の社会が活性化しない要因は、社会の中に「高潔な精神を育み、プライドを持って責務を果たし、謙譲の美德を忘れない」そのような行動規範が薄れ、それらが一向に高まってこないことにあるのではないかと思ったからです。

歯科医院に求められる社会的な存在意義を「社会に活力を与えることである」と主張する私たちとしては、歯科医療に従事する人たちが、まず高潔であることを佳とし、仕事にプライドを持ち、そして謙虚さを失わないことが社会の活性化には必要なのではないかと思っており、「高潔・プライド・謙虚」というテーマこそ2007年のスタートにふさわしいと考えています。

現代社会に潜む“照れ”や“実利主義”

ところが、現代の風潮は、これらに対して概して否定的です。高潔ということに対して社会全体になんとか“照れ”があるようですし、「利益に結び付かない自己満足」として非実利の範疇に押し込めているようにも感じられます。

あるいは「誇りでメシは食えない」といった現実主義的感性が幅を利かせていたり「謙虚さをウリにしていたら負け組に入る。自分を積極的にPRしないとだめ」と、謙虚さを消極性と誤解した考え方や動きが蔓延しているようにも